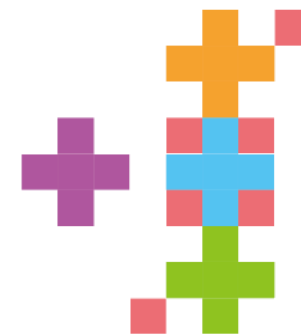


北海道大学プラス・ミュージアム・プログラム

ミュージアムにおける異分野との「対話」と「寄り添い」を通じた人材育成事業

令和6年度中間報告会



**+plus
Museum
Program**

CONTENT

01 | 人材育成目標

北海道大学とミュージアム/本事業の背景・意義/育成対象者の特色

02 | 育成プログラム内容

シンポジウム/エクスカージョン/インタビュー・シリーズ/ワークショップ・・・etc

03 | 育成の成果と今後の展望

01 人材育成目標

本事業の背景・意義

国内外の機運

TREND

ミュージアムへの新たな期待が高まっている

- ▶ 2022年、博物館法の一部を改正する法律が成立。
- ▶ 2022年8月、国際博物館会議（ICOM）の新規約採択
- ▶ **さまざまな課題**への貢献が、従来以上に注目されつつある。



観光



まちづくり



子育て



社会包摂



過疎・高齢化



災害復興



福祉・健康



人の幸福

現状の課題
NEEDS

新たな人材の必要性に対応できていない

- ▶ 他分野との連携・協働が求められる今後のミュージアムでは、従来の「専門知」に加えて、より広範な「総合知」の活用が求められている。
- ▶ しかし、現実には、中・小規模の館を中心に、ミュージアムへの期待に追いつけない現場も。

社会的課題解決のハブとしてミュージアムが
これまで以上に機能するために
新たなミュージアム人材が必要！

育成対象者の特色

社会教育系専門職

文化施設の職員

自治体、NPO等の職員

学芸員を目指す大学院生等

学芸員経験者・休眠学芸員

ミュージアムに強い関心をもつ一般市民

各回の参加者のなかには、こんな方たちが…

■ 北海道内のミュージアム専門職

札幌市博物館活動センター学芸員、札幌芸術の森美術館学芸員、小樽芸術村学芸課長、釧路市立美術館学芸員、北海道立釧路芸術館学芸員、夕張市教育委員会学芸員、だて歴史文化ミュージアム学芸員、釧路市こども遊学館事務局長 など

■ 日本各地のミュージアム専門職

滋賀県立琵琶湖博物館学芸員、長崎県美術館エデュケーター、広島県立美術館学芸員、十和田市現代美術館エデュケーター、神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員 など

■ 自治体、NPO法人等の職員

留萌市教育委員会生涯学習課、札幌市東区民センター運営委員、伊達市史編纂室、NPO 法人北海道遺産協議会、札幌市博物館活動センター事務職員

■ ミュージアム関係者に強い関心をもつ市民

北海道美術史研究者、ミュージアムグッズ愛好家 ほか

事業の特色

今あるミュージアムをよりよく活かし、
より住みやすい・生きやすい
社会づくりに貢献する

+ ミュージアムに！ 足してみる

これまではミュージアムに不足していた、

あるいは縁遠かった領域を積極的にミュージアムに足し算してみる

財政学、会計学、経営学、ブランド論、アーカイブ学などの知見に寄り添い、それらの専門家と対話することで、ミュージアムに今、必要な事柄を発見的に学び合う



多彩な専門家と
対話する

+ ミュージアムを！ 足してみる

社会の様々な課題にミュージアムをプラスし、

ミュージアムならではの課題解決について考える

人口減少と過疎化・高齢化、災害による地域の傷、障害者と地域社会との関係、人びとの幸福といった課題に、ミュージアムとして何が出来るのかを考えていく



知見を持ち寄り、
学び合う

02 育成プログラム内容

2022~2024 シンポジウム・レクチャー

ブラス・ミュージアム・プログラム 2023年度キックオフシンポジウム
記録をどう「つくる」「つたえる」「つかう」か
 —文化施設におけるアーカイブのあり方を考える—

地域文化の土台を積み上げる。
 生きたアーカイブを目指して。

2023年度のブラス・ミュージアム・プログラムでは、これまで以上に「記録」の重要性を認識し、その実践を通じて、地域文化の土台を積み上げる。生きたアーカイブを目指して、記録のあり方について考えていきます。

この「つくる」「つたえる」「つかう」の3つの視点から、記録のあり方について考えていきます。記録のあり方について考えていきます。

日時：2023年9月24日（日）13:00~17:00
 会場：北海道大学学術交流会館小講堂

2023.9.24 (日) 13:00
観光客が訪れる場とこえたミュージアムの役割

「訪れる」だけでなく、「つたえる」「つかう」の3つの視点から、記録のあり方について考えていきます。

日時：2023年9月24日（日）13:00~17:00
 会場：北海道大学学術交流会館小講堂

2024.1/28 (日)
ブラス・ミュージアム・プログラム 2024年度クロージングフェスタシンポジウム
Insight on Site
 地域とともにあるミュージアムの現況と未来

日時：2024年1月28日（日）13:00~17:00
 会場：北海道大学学術交流会館小講堂

2024年度
キックオフシンポジウム
専門知の分解・組み立て
いま、ミュージアムに問われる編集力

日時：2024年8月3日（土）10時~17時
 会場：北海道大学学術交流会館小講堂

2024年10月20日（日）
真面目で楽しい、専門知の世界
ミニシアターの底力、かっつき

日時：2024年10月20日（日）13:00~17:00
 会場：北海道大学学術交流会館小講堂

ブラス・ミュージアム・プログラム2022年度クロージングフェスタ 成果報告会

あなたには小樽へゆくの

日時：1月28日 会場：北海道大学学術交流会館小講堂

ブラス・ミュージアム・プログラム2023年度クロージングフェスタ 成果報告会

ミュージアムはまじろの常備薬

日時：1月28日 会場：北海道大学学術交流会館小講堂

2022年度

- ・オンラインと事後配信を含め、全国からのべ**696名**が参加。

2023年度

- ・オンラインと事後配信を含め、全国からのべ**390名**が参加。

2023

エクスカーショ 北海道・夕張市

「ミュージアムからはじまる共感の文化圏」

2012年2月 旧夕張市美術館 積雪の重みで損壊→閉館

2020年 夕張市拠点複合施設りすた オープン

2022年、2023年には旧夕張市美術館の収蔵作品展開催





ゆっくり
じっくり考える、
草の根の
スロー・
ミュゼオロジー



はじまりの美術館
(福島県猪苗代町)
館長 岡部兼芳氏



八戸市美術館
(青森県八戸市)
学芸員 高橋麻衣氏



夕張市拠点複合施設りすた
(北海道夕張市)
学芸員 山口一樹氏

2023

エクスカーション 北海道・厚真町

「記録と記憶-地域を癒すコミュニティ・アーカイヴ」

- 2018年9月の北海道胆振東部地震
- 厚真町軽舞遺跡調査事務所



地域を癒し、
災害を超えていくための、
アーカイブとミュージアム。



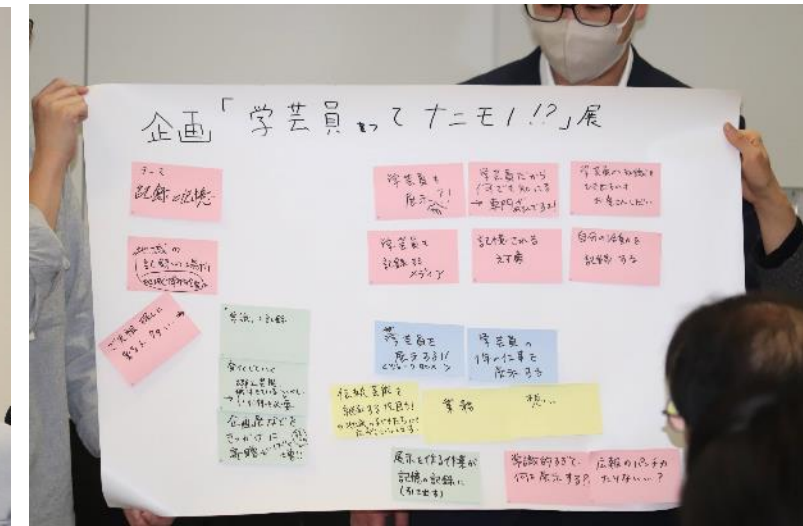
2022

ワークショップ

「地域とともにあるミュージアムのあり方を考える」情報交換会

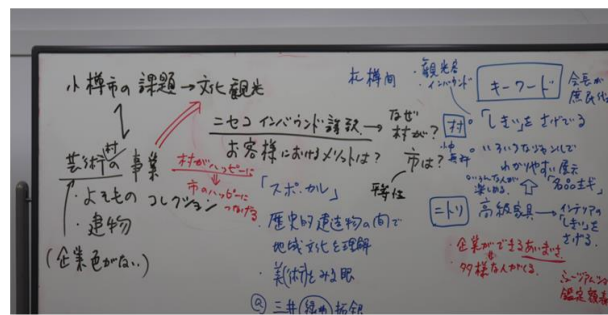
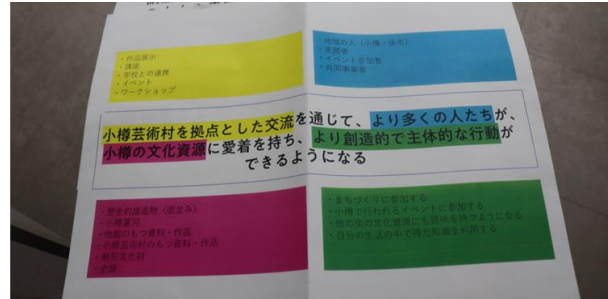


- 2023年2月12日(日)13時～16時
- 学芸員、行政担当者、アーティスト、ミュージアムグッズ愛好家、まちづくり会社・・・計18名
- 「観光」「記憶と記録」「社会包摂・文化多様性」



2023 ワークショップ

「ミュージアムと観光の新たな関係を創造する」ためのワークショップ



■ 2023年10月～2024年1月

■ 小樽芸術村を事例に

■ 学芸員、企業博物館館長、広告代理店社員、NPO職員・・・対面4回＋オンライン7回のワークショップを実施。

インタビュー・シリーズ

Insight on Site

「地域とともにあるミュージアムの現場に学ぶ」

- 2023年1月～9月
- 地域社会におけるさまざまな主体と「対話」し、地域課題に「寄り添う」北海道各地のミュージアム学芸員およびミュージアムに携わる関係者を対象に、個々の課題やそれに対する取り組みに関する知見を集めた企画。



02 育成プログラム内容

インタビュー・シリーズ

Insight on Site

「地域とともにあるミュージアムの現場に学ぶ」

学芸員

企業担当者



ミュージアムショップ・カフェ



ミュージアムグッズ愛好家



水族館営業 推進担当



ミュージアム × 商品開発



2024 となりのしばふシリーズ

2024年9月7日(土)
13時00分～16時00分

知の森へ
動物園の図鑑を題材に
動物園の図鑑を題材に
動物園の図鑑を題材に

どんなプログラム？

講師 吉田 右子 YOSHIDA, Yoko
東北大学図鑑情報メディア学専攻

申し込み方法
お申し込み先



2024年9月29日(日)
13時00分～16時00分

かわいー！だけじゃない
動物園が通して伝えたいこと

講師 末竹 純
東北大学図鑑情報メディア学専攻

申し込み方法
お申し込み先



03 育成の成果と今後の展望

育成者の声（アンケートより）

砕けた雰囲気の中、それぞれの思っていること感じていることを情報交換できたのはとてもよかった。設定されたテーマについても、昨今の情勢からミュージアムが今後必要となってくるテーマになっていて、**他館の学芸員がどのように考えている知れたのはとても貴重だった。**

このプロジェクトが企画されなければ、一生行かなかったであろう厚真町軽米遺跡調査整理事務所。すごく心を動かされました。・・・（中略）・・・最後に、地元の方が「これ、生田斗真のサインだよ」とジャンバーの袖のサインを見せて下さり、「アリエールを持って来てくれたんだ。」と笑ったあと、「あの時友達が11人も亡くなった」と話して下さり、胸に迫るものがありました。**地元の方から直接お話を伺えたこと、この事務所がこうした方々の心の支えでもあることがとても有り難く思われました。**

規模や信念の異なるミュージアムを一度に比べられるのは稀有なことなので、とても満足しています。観光といっても、立地の違いで条件が大きく異なるのもわかります。だからこそ、重いミュージアムと軽い観光の複雑な絡み合いは面白かったです。・・・（中略）・・・**観光×文化について学べる場というものが、行政職員やミュージアム職員にたくさんあると、ますますおもしろいミュージアムが誕生しそうなので、そういった場にも、今後期待したくなりました。**

育成の成果

01 2022年 ワークショップ

「地域とともにあるミュージアムのあり方を考える」情報交換会



「博物館PRとしての博物館擬人化」
2023年 全日本博物館学会
2023年 北海道博物館大会

02 インタビュー・シリーズ

小樽市総合博物館+小樽百貨 UNGA ↑



小樽市総合博物館
「第5回日本博物館協会賞」受賞
のきっかけに

03 2023年 ワークショップ

「ミュージアムと観光の新たな関係を創造する」ためのワークショップ



小樽芸術村の館事業として、文化観光への貢献の可能性についてさらに考えることに

今後の展望

シンポジウム・レクチャー

2024年11月
↓
2025年3月

- ・ 2025年1月
ミュージアムを「つづける」ということ

となりのしばふシリーズ

- ・ 2024年11月
本がつくる磁場 — 惹きつけるキュレーション
越境して語り合う — 札幌市内の文化施設
- ・ 2024年12月
動物保護と文化財保存の専門家が語る未来へのまなざし

書籍出版（2025年冬期予定）

2025年度
↓

- ・ 3年間の登壇者を中心に執筆

本学リカレント教育推進部との連携



+

そのほか学内外リソースの活用を模索していく

- ☑ ミュージアムをよりよく活かすために、ミュージアムに携わる人材の育成に取り組む
- ☑ 地域ミュージアムに関する研究や教育を通じて、より住みやすい・生きやすい地域社会づくりに貢献する

ミュージアムは、何でも治す「万能薬」やすぐに効果があらわれる「特効薬」ではない。
しかし、人びとに安心や癒しをもたらし、社会の呼吸を楽にする「常備薬」になることはできる。

